

学校名 羽生市立川俣小学校
所在地 埼玉県羽生市本川俣629番地
電話 048-561-1006

1 本校の概要

本校は、児童数 115 名、8 学級の小規模校である。明治 19 年に開校した歴史と伝統のある学校で、江戸時代から、地区の平安を祈りながら家々を回った「まわり地蔵」が 260 年以上も続いている地域である。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書週間に係る取組
- ・ 各教科等における学習に結び付けた取組

(2) 実践の概要

ア 電子書籍の利用

- ・ 読書活動の一つとして、電子書籍を活用している。児童は、タブレットを使用し、学習 e ポータル内の教材である『学研まんがひみつ文庫』を読んでいる。児童は、朝の読書タイムや週末の家庭読書としても楽しんでいる。



「児童の読書の様子」

イ 図画工作での表現及び鑑賞資料の活用

- ・ 児童生徒の図画作品集や、鑑賞に関する図書資料、タブレットを活用した観察「ものすごい図鑑「NHK for School」など、様々な情報メディアを授業に取り入れた。



「タブレットを活用した図工の授業」

ウ 「ひらけ！知のトビラ」教育プログラムの活用

- ・ 3 年生以上で、タブレット、新聞、図鑑を活用し、学んだことを更に深め広げる取組を授業の中に組み込んでいる。更に家庭において自主学習に取り組む際にも様々な情報メディアを積極的に活用するよう指導を行っている。
- ・ 総合百科事典『ポプラディア』を活用した「ひ

らけ！知のトビラ」教育プログラムを実施し、百科事典の活用を促進している。児童は、百科事典を使って、「ハテナシート」の疑問を解決していく。

エ 読書貯金

- ・ 学校図書館を川俣小読書銀行本店とし、各クラスを支店として運営する。10 冊(1・2・3 年生)、500 ページ(4・5・6 年生)読むごとに、読書貯金通帳にシールを貼る。
- ・ 読書貯金の実施状況を校内放送したり、昇降口に掲示したりし、児童の意欲を喚起する。令和 6 年度は、図書委員が「川俣小読書貯金 8 かいだてのいえ」を作成し、50 冊、1000 ページを達成すると、自分の名前と顔の絵が掲示される。



「読書貯金の掲示」

オ 読書郵便

- ・ 「本を読んで、みんなと仲良くなろう」がテーマ。児童・教員間で、読書の本で紹介された本を読み合い、紹介者宛に往復はがきを書く。ポストに投函されたはがきを、図書委員が配達する。



「読書郵便ポスト」



「図書委員による配達」

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ ICT を活用した調べ学習の授業と、自主学習での児童の評価及び称賛を継続的に行うことで、相乗的に児童の調べまとめる力の向上が見られた。
- ・ 随時、様々な情報メディアの活用を校内研修に取り入れ、学習資料、教材研究資料を充実させることで、児童の学びを更に深めることにつながった。

(2) 課題

- ・ 児童に情報リテラシーを身に付けさせる。

(3) おわりに

今後も更に情報メディアの活用を図り、児童の読書活動と学習の充実を図りたい。